

# パソコンオタの なんちゃって哲学

太田 富英〈とみっぺ〉

## No.49 AIは、創作から「仕方なく」を取り除くと思う

今月から一年間、CAMNETで僕の曲を流していただくことになった。流れるのは、高校・大学時代の曲を生成AI「Suno」でリメイクしたものと、今年、Sunoと新たに作った曲である。最初に「リフレイン」のリメイク案を再生したとき、パソコンの前で目を丸くした。静かに感心しながら、口をぽかんと開けたまま、しばらく笑いが止まらなかった。1曲で終われるはずもなく、24曲すべてをリメイクし終えるまで、ろくに眠れない一か月が始まった。

当時は3オクターブほどの小さなキーボードを使い、音楽制作アプリに一音ずつ打ち込んだ。ギター、ベース、ドラム、たまにキーボード。歌とハモリも自分で重ねる。一度寝ると頭の中のつながりが切れる気がして、10時間ほど一息で作った。完成時はヘトヘトだ。今聴けば、当時なりに頑張っているが、音は質相で、思い描いたものの何分の一も表現できていない。音楽理論も学んでいない素人の自己流だから当然だ。



「リフレイン」は王道でシンプルな歌詞とメロディーゆえ、民族音楽やゴスペルへ広げられると思っていた。Sunoにジェンベとウクレレを指定し、女性ボーカルで歌わせると、別の曲になったというより、隠れていた姿が現れたように感じた。昔は自分が歌うしかなかったが、自分の声のための曲でもない。曲に合う声を性別も含め融通無碍に選べるのは、大きな変化だった。自分が演奏できない楽器まで、曲のために選べるようになった。



昔の曲を知る人からは、「昔のほうがいい」「AI版には、とみっぺがない」と言われた。思い出ごと大事にしてくれるのはありがたい。けれど、作者の僕は案外、昔の苦労に愛着がない。当時、合格点だったのは、サビのメロディーと少し面白いコード進行くらい。演奏も編曲も歌も録音も、頼める人がいないから引き受けただけで、外注できるなら喜んで頼んだ。AI版から僕の声は消えたが、「仕方なく」も一緒に消えた。メロディー、コード、歌詞、方向性が前へ出て、作家性はむしろ濃くなった。当時の苦労や音源を懐かしみこそすれ、執着する気持ちは少しもない。むしろ、当時できなかったことへの未練のほうが大きかった。

過去曲のリメイクは、過去の自分、AI、今の自分の三者による話し合いと言える。昔の音源をSunoに渡し、今の感覚とずれる歌詞があれば直し、アレンジを提案させる。新曲は今の僕とAIの往復で作る。簡単な鍵盤演奏と鼻歌のサビを録音し、続きを考えさせる。AIが作った間奏やメロディーに歌詞を書き、歌ってまた返す。気に入った部分は波形編集でつなぎ、複製した音声の歌詞を変え、再びアレンジさせることもある。過去曲でも新曲でも、生成、加工、再投入を重ね、返ってきた案を選び直しながら曲を塗り足していく。

歌詞、要所のメロディーとコード、表現の核は僕が決める。AIには演奏や編曲、間奏、別のメロディーを提案させる。選択肢は一気に増えるが、どれを採り、どこで完成とするかは決めてくれない。楽になると思ったのに、気づけば何度も生成し、切り貼りし、歌い直している。一音ずつ積み上げる疲労が、無数の可能性を比べ、ひとつに絞り込む疲労へ変わった。それでもこの往復は、ひとりでは届かなかった場所まで曲を運んでくれる。



高校と大学の同級生が、同性のパートナーと結婚すると決めたとき、お母さんが二人の間に子どもができないことをなかなか受け止めきれなかった横で、お父さんが「未来の技術で、二人の子どもが作れるようになるかもしれない」と言った。目の前の二人でなく、常識のほうが変わる可能性を信じたのだ。家族への切実な願いと曲作りを同列には置けないが、Suno版を聴き、少し大げさながら、その未来が来たように感じ、彼らにもそういう未来は必ず来るのだと確信した。

ただし、この未来には、過去の自分が遺した材料が必要だった。その友人と学校に通った頃、周囲から半分笑われながらも、時間を費やして曲を作り、下手な歌まで入れた。曲を思いついても、普通は音源にまでない。そんな戯れ事ともいうべきデータを、25年後にAIへ渡す日が来たのだから、人生は捨てたものではない。若くて痛い歌詞は、あの頃の自分にしか書けない指紋であり、オリジナルであることの何よりの刻印である。それを愛でつつ、今の感覚で現代の形に作り直すことこそ、保存を超えた積極的な継承ではなかろうか。

「若い頃の苦労は買ってでもせよ」と言う。苦労をありがたがる趣味はないが、今、意味が分かった。下手でも役に立つか分からなくても、思いつきを形にして残す。その続きを未来の自分と技術が引き受けることがある。そもそもAIとは、人間が積み重ねた知と営為の集積である。それを使う僕らも手を止めてよいはずはない。未来に願いを託すなら、今の人間が作り、渡し続けるしかない。作らなかったものは、AIもリメイクできないのである。



### プロフィール

太田 富英（おたとみひで）

香川県高松市在住。スタジオとみっぺ代表  
(<http://tomippe.jp/>)

香川県立農業大学校非常勤講師（情報処理）。パソコンサポート、Webサイト制作等の事業を営む。スンドゥブとフォントと時刻表とカラオケが大好き。音楽は20年来のスピッツファン。お客様のつながりで2003年ごろ短歌を始める。今月の一首「気に食はぬレドカードも無効にす如何に狂ひし人かと言へば」●○ 現在、AIでリメイク・作曲したものを "radio Camnet" JET STREET に取り上げていただいています。ぜひお聴き下さい。